

## ビジネスリーダー | 新風録

### 業務開発・企画人材の紹介に注力 成長企業の発展に貢献する

#### 株式会社ドリームビジョン 平石 郁生 代表取締役社長

これまで6社の創業に関わってきた平石郁生氏。その中で、自動車保険の比較サイトを運営する株式会社ウェブクルーは、2004年9月に東証マザーズに上場。また、同氏が社長として創業したインターネットリサーチ会社のインタースコープはYahoo! JAPANとのM&Aを果たすなど企業成長に大きな成果を上げてきた。そして、昨年3月、新たに設立した会社が株式会社ドリームビジョンである。

平石氏は、商社、国内独立資本のコンサルティング会社、外資系の広告代理店を経て、1991年に設立した最初の会社を2000年の3月まで9年間経営した。

創業後、最初の3年間は前職の経験を生かしてマーケティングのコンサルティングを手掛けた。さらに次の3年間はマッキントッシュを用いてデザインやPR誌の製作をした。これがきっかけとなり、インターネット関連のビジネスにもかかわるようになる。最後の3年となる97年～99年はインターネット普及の時期でもあり、総合商社のイン

ターネット事業のコンサルティングなどを手掛けた。同時期に立ち上げた事業の一つがインターネットを活用したリサーチ事業であった。このインターネットリサーチ事業が、2000年にインタースコープという、自ら経営トップを務めるという意味で、2社目の会社となった。

インタースコープは、インターネットリサーチ会社の中では3強といわれるまでに成長。上場を目指していたが、3強の一角であるマクロミルが東証一部に上場、また、もう一社のインフォプラントはYahoo! JAPAN傘下となっていたことから、M&Aがよりメリットが大きいと判断し、07年2月、Yahoo! JAPANの子会社となる。

こうした経験を振り返ったときに気づくことは、初めて創った会社の最初の3年間、中間の3年間、最後の3年間では、事業の内容が全く異なっているということだった。自分達ができることと世の中の流れ等を踏まえて、機動的に事業内容を変革することがベンチャー企業

にとっては大切であることを実感したという。

過去16年間、すべてのビジネスをスクラッチから立ち上げ事業化するということを成し遂げてきた平石氏は、まさに「事業創造」のプロフェッショナルであり、経験豊富な経営者でもある。それらの経営者としての経験、ノウハウは、人材紹介事業を行う上で大きなスキルとなっている。

ドリームビジョンでは昨年10月、「自分らしい生き方とキャリアデザイン(自己実現)」を事業コンセプトに、自身のイノベーションやブレークスルーを真剣に考えている人を支援することを目的とした人材紹介事業をスタートさせた。

同社が目指すところは、イノベーションによる事業創造グループだ。事業の創造には、市場機会とリスク要因の見極め、投資・育成というファンクションが必要になる。そして、すべてのファンクションにおいて、最も重要な要素は人材である。

ベンチャー企業への転職者は、どのような人材なのだろうか。「大企業は大きな力を持っているし、携われる事業のスケールも大きいのは事実です。しかし、若くして自分で事業を企画し、責任と権限をもって事業を創造するチャンスに巡り合える確率

は高くはないでしょう。自分で事業をデザインし、推進していくという思いのある人は、若くして経営に近いポジションに携われる企業に行きたいと考えるのでしょうか。その受け皿のひとつが、ベンチャー企業だということです」と平石氏は話す。こうした事業創造への強い思いから、法政大学ビジネススクールと提携して、イノベーションをテーマとしたオープン講座の運営を行った。

同社の企業理念に共鳴し、自ずとイノベーションを意識した人材が集まってくる。最も得意とする紹介分野は、次の三つの領域だ。

一つ目は、戦略立案や投資だけでなく、戦略の実行にもかかわるプロフェッショナル・ファーム。

二つ目は、情報技術の有効活用という面からクライアントの経営を支援するIT系コンサルティングファーム。

三つ目は、最も注力する分野でもあるベンチャー企業や成長性の高い中堅企業の事業開発、事業企画、事業推進、経営企画など、経営に近いポジションだ。さらに今後はIT系以外の企業への人材紹介の拡大を図りたい考えだ。

平石氏は、「時代の変革期というのは、社会の構造にマッチし



プロフィール  
コンサルティングファーム、外資系広告代理店を経て1991年、市場調査および新規事業開発支援会社を設立。以来、計6社の創業に参画する。2000年3月、インターネットを活用した市場調査を行う株式会社インタースコープを設立し、代表取締役社長に就任。2002年には共同発起人としてインターネットリサーチ研究会を設立して代表に就任。2006年3月にドリームビジョンを創業、現在に至る。

なくなった産業が衰退する時期であると同時に、新しいテクノロジーやアイデアによる事業創出が加速される時期でもあります。そのような時代環境の今日においては、自分でビジネスを創っていける人材が求められているのです。そうした人材を見出し、彼らが活躍できるステージである成長企業に託していくことで、日本が活性化していけば…」と強調した。

「事業創造とイノベーション」に賭ける同氏の強く純粋な想いと取り組みは、就職活動において安定志向が強まる今日、日本の活力ある発展に大きな役割を果たすことになるだろう。